

北名古屋市認知症初期集中支援チームからの地域課題

①軽度者が利用しやすい交通手段が少ない。

認知症が自覚、他覚されていても移動手段が獲得できなければ自動車免許証の返納、診断を躊躇する要素となります。移動の困難さは社会参加を制限します。

※以下資源の提案になります。

・きたバス乗降援助…使いにくいというイメージがまだあると思います。初めて使う方は乗り降りの仕方も不安だと思えます。他市では民生委員の方がバスの乗り降りの練習をお手伝いされていたケースもあるとお聞きします。サポーターさん等バスの乗り降りをサポートして頂けるのであれば心強いと思えます。

・自動車運転免許を返納後のサポート・優遇措置…タクシー券など

・セニアカーのレンタル…介護サービスだけではなく、レンタカーのように1日～等任意の期限でレンタルができる。自宅までセニアカーを持って来てもらい、自宅から事業所まで返却ができる壮健なボランティアさんもいれば役割が増えて良いと思えます。駅で自転車の整備等をされている方は高齢の男性が多いように思えます。整備に携わって頂き予防にもなればと思います。

・路面整備…歩行者、車椅子、セニアカーが通りにくく危険。高齢者の外出を阻害します。

・バスの待合所の充実…スーパーマーケットへのアクセス。バスが増便されるのであれば待つ為の場所も必要だと思います。北バスのようにスポンサーをつけたり芸大のプロダクトデザインにご協力

・安全な自動車運転継続への働きかけ男性は自動車の管理を担っている事が多いと思えます。自動車修理、ガソリンスタンド、ディーラーさんなどにも介護予防（自動車運転継続の為の）スペース、啓発コーナーなどを設置して頂けるような環境があると良いのではないかと思います。防災交通課とコラボして「サポカー」の普及と一緒に認知症啓発ができると良いのではないかと思います。

②既存の資源について活用の不十分さ

・回想法の啓発…意外に市民の方が知りません。特に意欲が無くアウトリーチが必要な方には馴染みがないので参加を促すのが難しい。何度か訪問先で進めましたが認知されていたケースが殆どありません。

・啓発の為のツールの充実他市の認知症啓発イベントのポスターはカラフルでとても可愛くて目を引きまします。広報でも一部芸術大学の方が携わって作品を載せたりしているようなので、認知症講演会や回想法などの啓発の為のポスターについて監修していただいたりできないものかと思えます。

初期集中支援チームもポスターやパンフレットを作成したいですがご協力頂ける環境が作れたら良いと思えます。

③当事者同士、介護者同士の交流拠点の不足。

・常設されている集いの場認知機能が低下してきている方については、「時間」「場所」が限定されるとサロンに参加できない。いつでも利用できる健康診断ポイントがあると良いのではないか。

フラリと立ち寄った先で介護予防、認知症予防が身近にできる事が望ましいと思えます。

他市では道の駅などに交流拠点があったりするようです。

・買い物デイ…独居の方の生活援助。ショッピングセンター内にデイがあり、買い物に行ける場所があり、運動もできる。（一宮、東浦などにある）送迎にカーディーラーが協力する等地域との結びつきができる。企業側にも社会貢献、イメージアップ、とメリットもある様子。自分で買い物がしたい。という声は軽度者から重度者まで非常に多く聞く経験がある。